



富山県環境保全協同組合 発行所/富山県富山市野々上字地送6番地 TEL (076) 434-2802 FAX (076) 434-4440
URL <http://www.kankyo-hozen.net/toyama/>

雨のみくりが池



【主な記事】

- ・平成29年度通常総会
- ・平成29年度事業計画
- ・(一社)日本環境保全協会の各種事業
- ・北陸環境保全協会事業
- ・研修会「モアコンパクト型浄化槽に関する講習会Ⅰ」
- ・一般廃棄物適正処理推進大会in愛知
- ・青年部会特別会員の紹介
- ・富山県議会議員との懇談会
- ・第29回行政懇談会
- ・レポート・寄稿文
- ・第25回立山環境美化登山

頂上は雲の上





ご挨拶

富山県環境保全協同組合 理事長 上田 勝 朗

一般廃棄物の収集運搬業界の団体としてあと3年で60周年を迎えます。創成期には大変な苦労があったと思います。成長期にもその時代としての苦労があったとでしょう。今は、転換期として会員企業によって転換の方向が違っていたり、事情によっては廃業であったり、状況に大きな違いが出ています。昨年からは理事の皆さんには委員会をひとつずつ担当してもらって、7委員会+青年部会で組織されていますが、負担も大きいとは思いますが、大きな転換期にやりがいをもって大胆にいろいろなことに挑戦してもらいたいと思っています。

県内のし尿収集運搬業務においては業務量の

減少で、経営安定の妨げになっている企業もあります。廃棄物処理法の委託基準において、「委託料が受託業務を遂行するに足りる額であること」とされています。法律ですが守られているか市町村においても改めて原価計算をしていただきたい。また、「下水道の整備に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法」が富山県内においてはご理解いただけていないのが現状です。

現在、将来構想委員会において現状を調査し、分析した上で将来予想を市町村別に出す作業に入っています。県全体で関心を持っていただけるものになると思います。

富山県環境保全協同組合 平成29年度第31回通常総会 《清掃協会・環境保全協会から57回目》

1号、2号議案では28年度の主な事業の執行状況と各委員会の報告、続いて収支決算報告があり承認となりました。次年度の事業計画も承認となり会員が協力して本年度も取り組む意思を改めて確認する事が出来ました。

- 《議案》
- 第1号議案 平成28年度事業報告承認の件
 - 第2号議案 平成28年度収支決算承認の件(監査報告)
 - 第3号議案 平成29年度事業計画(案)承認の件
 - 第4号議案 平成29年度収支予算(案)承認の件
 - その他



《平成29年度事業計画》

本年度は、継続事項を重点に事業計画を進め、協同組合と会員各社が更に発展的に相互の繁栄と業務の安定化を図り、社会貢献も積極的に進めたい。

	計 画	事業内容
1	廃棄物の処理及び清掃各業務の委託・許可、営業既得権益の確保に邁進する。	一般廃棄物の収集運搬に関するマニュアルの作成 ----- 各市町村を訪問説明
2	県や市町村が行う下水道整備計画に伴って生ずる「下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法」に基づく代替業務等営業補償獲得や金銭補償などに総力を集中し、関係機関に対し強力な陳情、要請要望活動を進める。	各市町村を訪問説明（要望書） ----- 一般廃棄物処理業将来構想
3	市町村の固有事務である、し尿収集運搬業務の実態を訴え、相互連携の中で法律を遵守し、適正料金への改正運動を精力的に進めていく。	原価計算書の作成 ----- 各市町村を訪問説明（要望書）
4	浄化槽の保守点検及び清掃技術の向上のため、講習会及び広報と啓蒙活動の実施や優良協会及び事業所の視察、また業界新情報の収集等業務体系の前進拡大を期す。	先進地の視察研修 ----- 各種研修会の開催
5	啓蒙が必要と考える環境問題について、広く理解してもらうことと組合の活動や組合員の事業の認知度を高めるために、ホームページを充実させ情報を発信する。	会報の発行 ホームページの更新及び活用を研究
6	共同購入事業の円滑な推進を図るため、組合員の取り扱う資材の共同購入を行う。	共同購入 共同商品、共同事業の開発
7	交通安全、労働災害等事故の防止のための労働安全衛生事業の推進を図る。	安全対策の研修、研究
8	周囲の諸情勢認識の中で、組合員相互の団結と融和で組織の強化に務める。	業界の現状認識と今後の事業研究開発
9	一般廃棄物、産業廃棄物の適正処理処分及びリサイクルを図り、地域の環境保全や循環型社会の構築に寄与する。	現在の事業を生かしながら新規事業の開発 環境保全懇話会
10	地球環境から地域の環境について、情報収集や啓蒙を組織的に取り組む。	環境イベントに参加
11	行政機関及び関係諸団体との情報交換と連携の強化。	各種懇談会 ----- 日本環境保全協会、北陸環境保全協会の事業への参加
12	各所属団体、環境関連の表彰に関して積極的に推薦する。	会員の国、県、市町村並びに団体の表彰
13	組合を通じた社会貢献活動	立山環境美化登山 各社でのクリーン作戦
14	震災復興の支援と対策から学び、災害時のBCP（事業継続計画）・危機管理行動対応について研究	復興の支援と震災対策から学ぶ協同組合としての行動マニュアル作成

平成28年度一般廃棄物適正処理推進大会 in 愛知 報告書

(有)朝日衛生社 竹林 亨

- 開催日：平成28年11月17日(木)
- 会場：名古屋東急ホテル
パロック・ロマネクスの間
- 参加者：上田勝朗理事長、
廣瀬淳専務理事、
島正己理事、原野誠青年部会長、
竹林 亨、山内大輔、堀川 勲

○事業報告

11月17日に愛知県名古屋市で行われた「平成28年度一般廃棄物適正処理推進大会 in 愛知」に参加してまいりました。

まず始めに平成28年度一般社団法人日本環境保全協会会長表彰の表彰式があり、富山県から数名の表彰がありました。そして表彰者を代表して株式会社アースクリーン21取締役施設保全部長の堀川勲氏が全表彰者を代表して表彰状を授与され、とても素晴らしい表彰式になりました。

その後特別講演が二部行われ、環境省リサイクル対策部 廃棄物対策課長 瀬川恵子氏と愛知県知事の大村秀章氏の講演がありました。この中でも震災に伴い排出される廃棄物の問題と、食品廃棄物等に係る不正転売の事件が印象に残りました。開催地でもある愛知県の問題だったので、懇親会前の挨拶で大村愛知県知事が、未だ解決していない事案に関して相当な苦勞を熱

弁されておられました。

懇親会では余興も披露され、神楽太鼓の演奏を国内外で披露している「尾張一座」という団体の太鼓演奏がありました。会場内に太鼓の音色が響き渡りすごい迫力で圧倒されました。時間があっという間に過ぎとても有意義な時間を過ごさせてもらいました。

来年度は群馬県での開催とのことだったので、次回も一般廃棄物適正処理推進大会が盛り上がることを期待してます。



瀬川恵子課長を囲んで



一般社団法人日本環境保全協会 「平成29年新春特別講演会・新年賀詞交歓会」

○開催日：平成29年1月19日(木)

○会場：ホテルグランドパレス

○特別講演会

演題：「災害廃棄物対策の推進について」

講師：環境省 リサイクル対策部 廃棄物対策課

災害廃棄物対策室 災害廃棄物対策官

小岩 真之氏

平成29年1月19日、年明け恒例の一般社団法人日本環境保全協会の新春特別講演会・新年賀詞交歓会が開催されました。富山県環境保全協同組合からは上田理事長、廣瀬専務理事、島小一監事、島正己理事が前年に引き続き参加いた

しました。環境省リサイクル対策部 廃棄物対策課 災害廃棄物対策室 災害廃棄物対策官 小岩真之氏による「災害廃棄物対策の推進について」の講演では「ごみ処理基本計画策定指針」において災害時に一般廃棄物処理事業の継続性の確保が明記され市町村と業者が一体となって取り組む必要があることなどに触れて、改めて一般廃棄物処理事業における責任の重さを理解しました。新年賀詞交歓会では環境省の方々をはじめ山東昭子参議院議員（環境保全議員連盟会長）、中川雅治参議院議員（現・環境大臣）他多くのご来賓にご参加をいただきました。



中川雅治 現・環境大臣



山条忠文 現・会長



小岩真之氏



山東昭子参議院議員を囲んで

(一社)日本環境保全協会 平成29年度定時総会及び中央事業 ＝「特別講演会」・「懇親会」・「環境機器展」＝

○開催日：平成29年6月8日(木)

○会場：ホテルグランドパレス

○第4回定時代議員会

- 議事 1.平成28年度事業報告について
- 2.平成28年度収支決算承認について
- 3.理事選出について
- 4.平成29年度事業計画について
- 5.平成29年度収支予算書について
- 6.その他

○特別講演会

演題：「一般廃棄物の現状と今後の展開」

講師：公益財団法人 廃棄物・3R研究財団
調査部長 藤波 博氏

○環境保全議員連盟総会

○懇親会：ダイヤモンドルーム(2階)

○第51回環境機器展

平成29年度 定時総会及び中央事業
「特別講演会」・「懇親会」・「環境機器展」

特別講演会の「一般廃棄物の現状と今後の展開」では適正に受託業務を遂行することを順守したうえで将来に向けて何を考えて行けばよいかとの内容でしたが、時間も限られていたため改めて富山県環境保全協同組合にお越しいただき講演を実施することになりました。



総会の様子



田畑裕明衆議院議員を囲んで



環境保全議員連盟の皆様

一般社団法人日本環境保全協会 「第3回青年部事業推進協議会・研修会」

新高清掃(株) 金井 芳樹

○開催日：平成29年3月13日(月)

○研修会会場：

一般社団法人東京環境保全協会 大会議室
研修会テーマ 「武道から得られる教育と
青少年の健全なる育成」

講師 NPO 法人日本空手道不動産会
理事長代行 原野 誠氏

(青年部事業推進協議会副委員長・富山県環境保全協同組合青年部会長)

○懇親会会場：ホテルグランドパレス白樺の間(3階)

■一般社団法人日本環境保全協会 第三回青年部事業推進協議会・研修会



富山県環境保全協同組合青年部会長 原野 誠

平成29年3月13日に、一般社団法人日本環境保全協会の「第3回青年部事業推進協議会・研修会」が(一社)東京環境保全協会大会議室にて開催され、原野部会長、山内・竹林両副部会長と4名で出席しました。

研修会では、青年部事業推進協議会の副委員長の原野部会長がNPO法人日本空手道不動産会の理事長代行として講演をされました。テーマは「武道から得られる教育と青少年の健全なる育成」についてのお話でした。青少年の育成という意味で、色々な角度から熱意のこもった表現がとても印象的でした。

特に心に残ったことは「礼儀とは…人のために自分を活かすこと」という意味の深さでした。普通に挨拶しているときでも、よく考えてみると挨拶



の一つ一つが自分を活かすための源になっていることに気づきました。また基本についての話では、最初の簡単な基本をしっかり身に付けて置かなければ、後々に困るということを改めて感じました。人生の中では、様々な基本があります。基本の意味を簡単に受け入れるだけでなく、基本の中では潜在的な基本もあり、低いレベルで取り組んだ場合には失敗してしまうこともあります。基本を考えた場合、絶えず高いレベルで望まなければならないこと、基本にも努力が必要なことを改めて考えさせられました。

講演後には、原野部会長が出場されたスーパーファイトイング全日本空手道選手権大会の試合の様子が上映され、最後には「演武」で瓦10枚割りを披露され、会場が割れんばかりの拍手に包まれました。

研修会後はホテルグランドパレスに移動し、70名程の参加者で懇親会が行われました。新たに青年部が発足した県もあり、昨年以上に意見交換を行うことができました。各青年部の事業報告では竹林副部会長が事業報告と平成30年度に行われる当組合青年部会設立35周年式典の開催のお話をされ、他県の青年部会員のより多くの方に富山県へ足を運んで頂けるように全員でしっかりお願いしてきました。

本年度も先輩方のご指導を頂きながら、原野部会長、山内・竹林両副部会長を中心に青年部会員一同で環境や地域のために、また本業界の発展のために若い力で盛り上げていきたいと思っておりますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



北陸環境保全協会 平成28年度全体会議

- 開催日：平成28年9月8日(木)
- 会場：湯涌温泉「秀峰閣」
- 会議：
 - 議題 ①平成27年度収支決算報告
 - ②各県の現状報告
 - ③その他
- 研修会
 - 演題：「一般廃棄物処理業に係る諸情勢について」
 - 講師：一般社団法人日本環境保全協会
専務理事 阿久津 民和 氏

平成28年度北陸環境保全協会全体会議は、石川県 湯涌温泉「秀峰閣」で開催されました。総会議題の他、各県の現状について報告後、今後の一般廃棄物処理事業についての意見交換を行いました。また(一社)日本環境保全協会 専務理事 阿久津民和氏による「一般廃棄物処理業に係る諸情勢について」では全国的な動向や判例についての講演をいただきました。



青年部会特別会員の紹介 (平成29年4月入会)

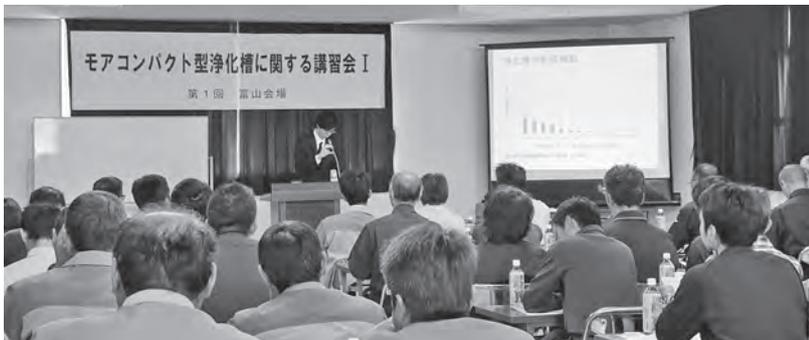
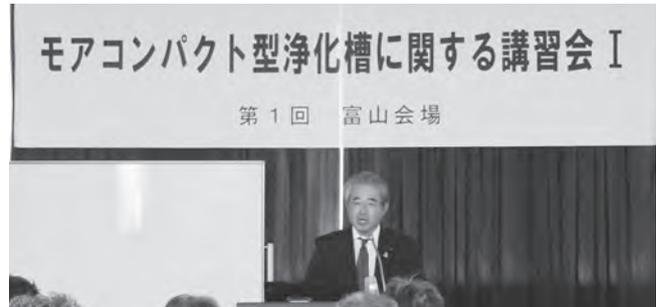


本年より入会させて頂くことになりました、株式会社アムテックの赤壁博之と申します。年齢は31歳とまだ未熟者で至らない点多々あるとは思いますが、本組合や青年部での活動を通じて、皆様とのご縁や絆を深めてまいりたいと考えております。最近ではゴルフを始め、今までこれとって趣味がなかった私にもひとつ楽しみが増えました。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

モアコンパクト型浄化槽に関する講習会Ⅰ(第1回富山会場)

- 開催日：平成28年10月14日(金)
- 会場：富山県環境保全協同組合2階会議室
- 主催：(公財)日本環境整備教育センター
- 講義内容：①KTG型、CF型の構造、機能
②KTG型、CF型の維持管理
- 参加人数：51名

モアコンパクト型浄化槽に関する適正な維持管理技術や、社会的信頼性の向上を図ることを目的に講習が行われました。遠方からの参加者もあり、熱心に質疑応答をしておられました。



し尿収集運搬業務情報交換会

- 開催日：平成29年3月8日(水)
- 会場：富山県環境保全協同組合1階会議室
- 企画：廃棄物対策委員会
- 参加人数：15名

し尿収集運搬業務について情報交換会を行いました。人口減少や下水道への切り替え等による設置件数の減少に伴い継続的に業務を行っていくにはどのようにしたら良いのかなど現状及び今後の課題を共有しました。



富山県議会議員との懇談会

○開催日：平成29年2月8日(水)
午後1時～午後2時

○会場：富山県民会館613号室

○出席者：

富山県環境保全協同組合 理事・監事

富山県議会議員

自民党福祉環境部会 奥野 詠子 議員(富山第1)

五十嵐 務 議員(富山第1)

井上 学 議員(富山第2)

上田 英俊 議員(下新川)

高野 行雄 議員(魚津)

○懇談テーマ：①浄化槽に関する課題
②一般廃棄物処理業の課題



富山県生活環境文化部環境政策課との研修会

○開催日：平成29年1月11日(水)

○会場：富山商工会議所99号室

○企画：総務委員会

○講師：富山県生活環境文化部

環境政策課 主幹 九澤和英 氏

主任 木原 忍 氏

○内容：「快適な環境づくりを目指して」

①汚水処理の現状

②浄化槽に関する最近の状況

③とやま廃棄物プランの推進と
不適正処理対策

④情報交換

今後の汚水処理や浄化槽について、国や県の動きを詳しくご説明いただきました。

最後には、とやま廃棄物プランの各項目について意見交換が行われ内容の濃い研修会となりました。



富山県生活環境文化部環境政策課・富山県環境保全協同組合 第28回行政懇談会概要

○開催日時：平成29年8月9日(水)
午後1時30分～3時30分

○会場：富山県民会館706号室

○ご来賓：富山県生活環境文化部環境政策課
課長 滑川 哲宏 氏
主査 八田 哲典 氏
主任 木原 忍 氏

○出席者：19名

《講演》

○演題：「これからの廃棄物行政の動向について」
講師：富山県生活環境文化部環境政策課
主査 八田 哲典 氏

講演内容：

- ①富山県の現状、とやま廃棄物プラン
- ②食品ロス・食品廃棄物対策
- ③海岸漂着物対策
- ④浄化槽に関する国の動向
- ⑤環境施策の推進

○議題

- ①家電リサイクル料金のありかたと不法投棄について
- ②業者支援について
- ③水銀使用製品産業廃棄物について
- ④グリストラップの実態調査について
- ⑤浄化槽に警報器の取り付けを義務化
- ⑥浄化槽廃止時の清掃と廃止届の徹底について

食品ロス・食品廃棄物について、実態把握調査を行った際の状況などを説明していただいたり、県が開催している食品ロス等削減普及啓発事業の紹介もありとても興味深い内容でした。



「環境タイムズとやま」9月号発刊にあたり

一般社団法人日本環境保全協会 会長 山条 忠文

「環境タイムズとやま」9月号発刊にあたり、一般社団法人日本環境保全協会を代表して一言ご挨拶させていただきます。6月8日開催された一般社団法人日本環境保全協会平成29年度通常総会において新会長に就任いたしました山条忠文です。富山県環境保全協同組合上田勝朗理事長さんには大変お世話になっております。前宇田川育男会長は、終身名誉会長にご就任いただき今後も引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます次第です。日本環境保全協会は昭和36年6月に日本清掃協会として設立し、昭和46年4月に日本環境保全協会へ改組、平成26年4月に一般社団法人へ移行しました。この間会員各位の強い絆で結ばれ更にご理解とご協力により今日まで実に半世紀を超え一般廃棄物処理業者の健全な発展と廃棄物の適正処理確保に全会一丸となり歴史の実績を築き上げて参りました。宇田川育男会長は、日本環境保全協会の会長として32年間私共一般廃棄物業界の地位確立、さらなる発展に多大なるご貢献を頂き更には歴代の環境議員連名の先生方、環境省ご当局、関係各位との連携を密にして頂いた功績は誠に多大なものであります。私共が最も信頼し尊敬する宇田川会長の後継者としての責任の重さを痛感いたしております。

私共は全国の市町村行政に積極的に協力し、地域住民の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に向け最前線で取り組んでおります。一般廃棄物の適正処理により清潔・快適な暮らしを保持し一般廃棄物処理の公共性・重要性の認識とそ

の実践を地域住民に強く求めて参ります。環境省は組織改革し廃棄物・リサイクル対策と放射性物質汚染対策を統合し「環境再生・資源循環局」を新設し環境省の最重要課題として省挙げて被災地の「環境再生・復興創生」を一層加速化する方針であります。私共は昨年4月に熊本地方を大震災が襲い熊本県環境保全協会・九州沖縄ブロック協議会・そして全会員の協力のもとに被災地の復旧支援に努めご協力を頂き、環境大臣より感謝状を授与されると共に本年1月17日環境省より災害廃棄物処理支援ネットワークチームのメンバーに任命されました。

今後は環境省の指示指導に従い適切に対応を図って参ります。また水環境の保全では生活排水処理施設として経済的かつ効率的で災害に強い合併浄化槽の普及促進と適正な維持管理体制の整備を図って参ります。さらに未来に向けて環境への負荷の低減を図る為、食品リサイクル事業、容器包装リサイクル事業等積極的に取り組み循環型社会構築に努めて参ります。

さらに日本環境保全協会の各般にわたる諸課題に積極的に取り組み社会の要請に真摯に応え歴史の実績と培った技術力を礎に環境保全事業を総合的に担う企業集団として更なる飛躍を果たして行く決意でありますので会員各位の格別なご理解とご支援をお願い申し上げます。

結びに富山県環境保全協同組合の益々のご発展と組合員各位のご健勝ご隆盛をお祈り申し上げますご挨拶とさせていただきます。

第68回 全国植樹祭

株式会社魚津清掃公社 廣瀬 和夫

祭のきっかけとされているところでもあります。

開催当日の朝は肌寒さを感じ、時折小雨も降るといふあいにくの天候でありましたが、開催時刻が近づくと晴れ間が広がりました。

奉迎ムードが高まる中、沿道の方々も日の丸の小旗を打ち振り、「天皇皇后両陛下万歳」を連呼したりと一体感が生まれていました。笑顔の家族連れや、ご家族の遺影を持っておられる方、様々な思いで参加されていることが伝わってまいります。両陛下の御料車のお通りを待ってい

魚津市の桃山運動公園を主会場として天皇皇后両陛下ご臨席のもと、第68回全国植樹祭が開催されました。富山県内では二回目、昭和44年に砺波で開催されて以来48年ぶりの開催となります。

植樹祭と富山県との関わりは、昭和天皇が戦後の御巡幸で昭和22年の10月に陛下の御希望により、戦後初めてとなる御手植えが急きょ実施され、3本の立山杉が御手植えされたそうです。このことより、陛下の大御心に対して全国植樹

る市民の皆さんが沿道に続いていました。両陛下も、窓を大きく開かれ、沿道の人々に手を振り続けておられました。真摯にお応えになる両陛下のお姿に、沿道奉迎の方々が見事な美しい光景が多く見られました。

式典では、林業の振興や緑化の推進など様々な分野で顕著な功績のあった方々への表彰のほか、苗木の贈呈、植樹祭記念切手の披露、次回開催地へのリレーイベントなどが行われました。また、桃山運動公園をはじめ県内7か所で記念植樹が行われ、多くの方が参加されました。こ



の日、県内で植樹された苗木は28種類、本数にして1万本にも上ります。

この開催、奉迎活動で、皆さんの天皇皇后両陛下の行幸啓を喜び歓迎する心の強さをうかがい知ることができました。県民の心に合致して初めてこのような大きな成果を生むことができたのではないのでしょうか。畏れ多いことではありますが、天皇皇后両陛下におかれましても県民の大歓迎をお喜びいただけたのではないかと、思っております。



写真：魚津市提供

「環境」について思うこと

富山県知事指定検査機関 公益社団法人 富山県浄化槽協会 (T J K)
専務理事・事務局長 栗林 弘明

私が「環境」という言葉から一番目に思い起こされるものは「川」です。

子供時代に町内を流れていた小川の底は白砂だったし、少し山側にある親戚などは、井戸水で洗う前に横の川に茶碗などを浸したりスイカも冷やしたりしていたくらいにキレイだったのです。

また、昔は、未だ下水道等の整備がされていない地域が大半だったので、トイレは汲み取り式で台所や風呂からの排水、いわゆる生活雑排水が直接川に流されていましたが、それでも川の汚れがさほど気にはならなかったように思います。今では、生活雑排水を川に流す家庭は随分少なくなりましたが、それでも自転車や畳な

どが川に放り込んである光景を目にすると、驚きを禁じえません。

下水道の整備といえば、昭和50年代の富山県の下水道関係予算は、北陸3県に比べると予算に占める比率が少なく、浄化槽の設置が進んでいたためか公共下水道の必要性がそんなに認識されていなかったように思います。

その後、公共下水道の普及（公費）に力が注がれる一方、家庭での単独処理浄化槽（私費）の設置も進みました。しかし、し尿よりも廃天ぷら油やラーメンの汁などの生活雑排水の方が環境に大きな負荷を与え、それが河川等の公共用水域の大きな汚染原因となっています。ですから、合併処理浄化槽に変換せずに単独処理浄化槽の

ままだと、汲み取り式トイレの家庭と同様に環境に大きな負荷をかけているのだ、という認識が無いことがやはり大きな問題だと思います。

私の町内では、農村集落排水事業の導入により、単独処理浄化槽はほぼ無くなりましたが、それは、決して単独処理浄化槽が環境に与える影響が大きいから、という理解の元ではありませんでした。

その経験から、単独処理浄化槽による環境汚染は、普段の生活からは見えづらいものであり、だからこそ、よりPRしていかないといけないと思っ

ています。それから、次に「環境」町から思うものは「ゴミ」です。というのも、町内会の役員を十年余りしており、また普段の生活で、町内のゴミステーションの側をよく通るため、ゴミステーションの様子が分かってしまうからです。回収されるのか？と疑問に思う物が出されているのを横目に見ながら出勤し、帰宅の際、回収されるのを見る度に、回収作業の方達には大変感謝しております。(回収しないと、不法投棄に繋がるからだと思っています。)

この「ゴミ」に関しても、自分の子ども時代から思えば、随分大きく変わったと思います。

そもそも、昔はゴミステーションなど無く、ゴミの大半は各家庭で個別処理をしていたものです。流せるものは川に流し、一部は堆肥にし、燃やせるものは家で燃やす、また、燃やせないものは埋める、という方法がとられていました。その後、環境問題への関心が高まり、ダイオキシン

の問題から各家庭での焼却処理は激減し、ゴミの収集に莫大な経費がかかるようになりました。先日、当協会の青年部の皆さんによる六渡寺海岸の清掃活動をされるのに参加したとき、小さく幅も狭い海岸にもかかわらず、その分凝縮されたように一杯のゴミに驚きました。さらに、青年部の方から、大半のゴミは県民が川に流したものであること、掃除しても数日で元通りになっ

てしまうことを教えていただき、環境問題への関心が高まる一方で環境を蔑にする人々の多さを実感することができました。また、その際に、上田会長から「ゴミを拾っている限り、いつまでも拾っていなければならない。ゴミを如何に出さないようにするかを工夫しなければダメ。」という言葉聞き、大量消費の生活様式が浸透してしまっている中で中々難しいけれど、出来るところからひとり一人が心掛けていかなければいけないと思いました。

環境問題、環境改善への意識が高まり、目に見えないPM2.5や抗生物質等の蓄積などにも注意を払う今日、改めて、「水」や「ゴミ」など身近な環境を意識する大切さを感じるこの頃です。

富山県浄化槽協会(TJK)の一員としては、少子高齢化が進展する中で人口が減っていく時代に、市街地等の人口密集地域以外での公共下水道の無駄さと、公共下水道と同等の機能を有し進化し続けている合併処理浄化槽の有用性、経済性を、県民の皆さんに広く知っていただけるように努めていきたいと思っております。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

1人1日当たり、約200ℓ(=BOD 40g)の生活雑排水を出しています!



※ 汲取り便槽の家庭は、し尿以外の生活雑排水のみ 27g/日

食品ロス削減・県民総参加の運動の展開に向けて

1. 取組の背景

平成28年5月、G7伊勢志摩サミットに先立って本県でG7富山環境大臣会合が開催されました。会合では、気候変動及び関連施策、海洋ごみ、資源効率性・3R、生物多様性、都市の役割、持続可能な開発のための2030アジェンダ、化学物質管理の7つについて議論が行われ、その成果がコミュニケとして取りまとめられました。なかでも、資源効率性・3Rについては、国際社会が連携し、資源や廃棄物の有効利用を進める「富山物質循環フレームワーク」が採択されました(このフレームワークはG7伊勢志摩サミットの首脳宣言にも盛り込まれました)。このフレームワー

富山県理事・生活環境文化部長 長坂 雄一

クにおいて、各国が連携して進める取組の具体例として、食品ロス・食品廃棄物対策が挙げられました。

食品ロス：食べ残しや賞味期限切れ食品など、食べられるのに捨てられてしまう食品

食品廃棄物：食品ロスに加え、魚の骨や野菜の皮、調理油など食べられない部分を含めた廃棄物

2. 富山県における取組の開始

「富山物質循環フレームワーク」で食品ロス・食品廃棄物対策が取組の具体例として取り上げられたことを受け、富山県では県庁内に部局横断の庁内プロジェクトチームを平成28年5月に設置

し、庁内各部局における取り組み状況の把握や今後の課題等について検討を開始しました。また、平成28年9月には、有識者、事業者や消費者の関係団体、市町村からなる「食品ロス・食品廃棄物削減対策検討会」を設置し、食品ロス等の削減に向けた具体的取組や課題等について検討を開始しました。

食品ロス・食品廃棄物削減対策検討会では、設置以降3回にわたって食品ロス・食品廃棄物の削減について検討を重ね、本年3月31日に主な意見のご報告をいただきました。

3. 食品ロス・食品廃棄物の実態

国の推計によると、国内において、食品廃棄物等は年間約2,797万トン、そのうちの食品ロスは年間約632万トン発生しています（農林水産省資料より平成25年度推計）。日本の食品ロス（約632万トン）は世界全体の食料援助量（約320万トン（2014年））の約2倍、国民1人1日当たりの食品ロス量は約136gで、おおよそ茶碗1杯分のご飯の量に相当します。

一方で、県内から排出される食品ロス・食品廃棄物の実態は明らかになっていなかったことから、平成28年度より、事業系及び家庭系とに分けて食品ロス・食品廃棄物実態把握調査を実施しています。家庭系の実態把握調査については季節による変動が大きいことから通年の調査結果に基づく解析が必要となりますが、平成28年度の3回（11月、1月、3月）の調査結果による暫定的解析を行った結果、県内においては、食品廃棄物等は年間約16.9万トン、そのうちの食品ロスは年間約3.8万トン発生していると推計されました。

また、3回の可燃ごみの内訳調査により、多くの手付かず食品が廃棄されていることがわかりました。並行して実施した一般家庭へのアンケート調査によると、88.0%の家庭で「賞味・消費期限切れ等の手付かず食品」を廃棄しており、その理由として最も割合が高いのが「購入したことを忘れてしまい、期限切れになる」で61.5%、「購入しすぎて使い切れない」は27.2%であることがわかりました。

4. 県民総参加の運動へ

県では食品ロス・食品廃棄物削減対策検討会の報告を受け、検討会を発展する形で有識者や関係団体、市町村等で構成する「富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議」を本年5月8日に設置しました。

県民会議では以下の基本方針を定め、県民への幅広い周知・啓発など、県民総参加の運動として展開していくこととしています。

基本方針

農林水産物の生産者、食品関連事業者（食品製造業、食品卸売業、食品小売業、外食産業）、消費者、行政などがそれぞれの立場で創意工夫を

こらして、食品ロス、食品廃棄物の削減に取り組むとともに、お互いが情報共有し連携しあうことで、完食、完売の取り組みについて、県民一丸となって進めていく。

- (1)食品ロス・食品廃棄物の実態把握と推進体制の整備
- (2)食品ロス・食品廃棄物の削減に関する周知・啓発
- (3)発生抑制（リデュース）の重点的な取組

県では以上の基本方針を踏まえ、平成29年度は以下の事業を実施していくこととしています。

○食品ロス等削減運動協力宣言事業者の募集

登録事業者には、ステッカー等を配布し、「食品ロス等削減運動協力宣言事業者」として県ホームページなどで紹介します。

○食品ロス・食品廃棄物削減に関するシンポジウムの開催（9月16日）

○食品ロス・食品廃棄物削減モデル活動支援事業の募集

3R（リデュース、リユース、リサイクル）の観点から取り組む食品ロス・食品廃棄物削減のためのモデル活動の企画を募集し、1事業につき10万円を限度に補助します。

○食品ロス削減のアイデア募集、情報発信

気軽に取り組める食品ロス削減のアイデアを幅広く募集し、とやま環境フェア（10月）で表彰します。また、買い物・調理・外食での取組事例をSNS等を通じて情報発信します。

○サルベージ・パーティのモデル開催

楽しみながら食品ロス削減に取り組む機会を提供するため、家庭で余っている食材を持ち寄り、おいしい料理に変身させる「サルベージ（救助）・パーティ」をモデル的に開催します。

○啓発チラシ・パンフレット・ポスターの作成、配布

組成調査の結果や取組例を分かりやすく説明した統一的な啓発チラシ、パンフレット、ポスターを作成・配布します。

5. おわりに

食品ロス・食品廃棄物の削減方策としては、3Rの観点からは①リデュース（発生抑制）②リユース（再利用）③リサイクル（再生利用）の3つに分類できますが、消費期限・賞味期限が存在するという食品の性質を考えれば、最も効果的なのは①のリデュースと考えられます。これは、一人ひとりが消費者として、食品を買いすぎない、買ったものは消費期限・賞味期限前にちゃんと使い切る、料理は食べきれないほど作らないようにする、作った（出てきた）料理は残さずに全て食べる、といった地道な取組の積み重ねが必要となります。

この原稿をご覧になる皆さんは元々廃棄物減量化に対して意識の高い方々だと想像しますが、食品ロス・食品廃棄物の一層の削減のため、一人の消費者として、少しでも食品ロス等を出さないように普段から心がけていただけることを期待いたします。

第25回立山環境美化登山

開催日：平成29年7月23日(日)
開催場所：国立公園立山室堂周辺 参加人数：49名

第25回立山環境美化登山レポート

富山県環境保全協同組合 青年部会長 原野 誠
富山県が、自然公園美化思想の普及を図るため実施している自然公園クリーンデーの事業として、継続して実施しており、本年で第25回目を迎えました。地域の環境保全に寄与することを目的とし、富山県の代表的な観光地である立山に登り「ゴミを拾う運動」です。開催案内は会員17社及び関係機関10先にさせて頂きました。

今回は第25回開催を記念し、参加者で今回を含め通算10回以上の方へ開催当日の開会式の場にて対象者4名へ記念品をお贈りしました。

立山環境美化登山に参加することにより、環境に対する意識を改めて認識し、日頃の生活の中に生かしていただきたいという想いで開催致しました。49名のご参加を頂いた第25回立山環境美化登山ですが、開催当日は強い雨風となり視界も悪くゴミ拾いや登山には適さない天候となってしまいました。こちらの思いとしましては、とにかく安全に無事に集合時間に皆様戻ってきて下さることを願っておりました。しかしその悪天候の中では天候の良い日には出来ないことをされたり、行かない場所に行かれたり、皆様それぞれがその時間を楽しまれていたのが印象的でした。

本事業の主でもありますゴミ拾いも行っており、53種類のゴミを集めることが出来ました。これについてはゴミ集計表を添付しクリーンデー報告書として富山県へ報告致しました。



拾ったゴミの集計

ゴミの種類	数	ゴミの種類	数
ビニールや袋の破片	29	紙パック	
お菓子の包み紙	4	キャップ	
金属片		スナック菓子	
ガラス・陶器の破片		ビニールひも	
輪ゴム		空き缶(飲料缶)	
紙片	8	ガム	
ゴム片	7	傷ばん	
プラスチック類	4	くつ・サンダル	
つまようじ		ゴミ袋	
布片	1	食品包装用袋	
		合計	53

平成28年度「要望書」

市町村の委託又は許可で一般廃棄物の収集運搬業務を行っていますが、富山県環境保全協同組合として現場からの提案であったり、業務の安定、安全、安心のための要望等を毎年、県知事と県議会議員、市町村長と各議長に提出しています。都合がつけば市町村長に直接説明をすることもあります。私たちは法律を遵守しながら、住民の皆さんが安心して快適な生活ができるよう、日々こだわりを持って業務を行っています。行政においても担当者が数年で交代されるということもあり、情報提供として日頃の課題をお伝えする意味で要望書や陳情書を提出しています。

【平成28年度の要望】

- ・「一般廃棄物処理業務委託について安定かつ恒常的な適正契約締結について」
- ・「下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理計画業務等の合理化に関する特別措置法の遵守について」
- ・「単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換について」
- ・「浄化槽の信頼向上と安心して使える対策について」
- ・「災害時の避難所に浄化槽の設置について」

富山県環境保全協同組合

〒930-0171 富山県富山市野々上字地送6番地
TEL (076) 434-2802 FAX (076) 434-4440

■(有)朝日衛生社

〒939-0733 富山県下新川郡朝日町月山 2201
TEL (0765) 82-0585 FAX (0765) 82-2634

■(株)黒東アメニティ公社

〒939-0627 富山県下新川郡入善町桐山 802
TEL (0765) 72-2822 FAX (0765) 74-1422

■黒部クリーン(株)

〒938-0015 富山県黒部市北野 47-2
TEL (0765) 52-0047 FAX (0765) 52-5222

■(株)魚津清掃公社

〒937-0807 富山県魚津市大光寺 61-1
TEL (0765) 22-0311 FAX (0765) 23-0536

■(株)公生社

〒936-0803 富山県滑川市栗山 3596
TEL (076) 477-1114 FAX (076) 477-1628

■(株)婦中衛生

〒939-2759 富山県富山市婦中町友坂 252
TEL (076) 465-5332 FAX (076) 465-5382

■クリーン産業(株)

〒939-8211 富山県富山市二口町 1-7-13
TEL (076) 421-5626 FAX (076) 421-5640

■(株)アースクリーン21

〒934-0056 富山県射水市寺塚原 905-3
TEL (0766) 84-6648 FAX (0766) 84-4055

■新高清掃(株)

〒939-0285 富山県射水市本開発 550
TEL (0760) 95-1373 FAX (0760) 95-2315

■(株)アムテック

〒935-0025 富山県水見市鞍川 1383
TEL (0766) 72-5656 FAX (0766) 72-1808

■(株)高岡市衛生公社

〒933-0008 富山県高岡市材木町 731
TEL (0766) 23-2228 FAX (0766) 28-1154

■デムラ工業(株)

〒933-0806 富山県高岡市赤祖父 557-3
TEL (0766) 23-7155 FAX (0766) 23-2495

■(有)クリーンアクト砺波

〒939-1345 富山県砺波市林 1316
TEL (0763) 32-1235 FAX (0763) 33-2431

■日環サービス(有)

〒939-1542 富山県南砺市梅ヶ島 167-1
TEL (0763) 22-2922 FAX (0763) 22-7347

■(有)福岡クリーン・アルファ

〒939-0121 富山県高岡市福岡町下老子 4
TEL (0766) 64-6677 FAX (0766) 64-6668

■(有)小矢部衛生工業

〒932-0121 富山県小矢部市矢水町 672
TEL (0766) 61-4277 FAX (0766) 61-4258

■(有)井波庄川衛生工業

〒932-0315 富山県砺波市庄川町示野 182
TEL (0763) 82-1164 FAX (0763) 82-6665